

令和7年度小松市立向本折小学校 学校評価2

	目標・具体的取り組み	取組の状況（中間・8月提出）	取組の成果と課題（年度末・3月提出）
生徒指導	＜あたたかくつよい集団をつくる＞	・児童アンケート「よいことと悪いことを判断し、良いとおもうことを進んで行く」、「自分にはよいところ、成長したところがあると実感している」の項目において、どちらも90%以上の児童が肯定的な回答をしている。 ・学期にあった学校生活オリエンテーション、また、児童会との連携を行い、2学期以降も児童の自己肯定感や自己有用感が高まるようにしていきたい。 ・児童の細かな見取り、共通理解は継続すること。日々の見取りによる困っている児童の発見に努め教育相談と連携し専門相談を行い、継続的な支援を行う。	・児童アンケート「自分にはよいところ、成長したところがあると実感している」の項目においては95%、「よいことと悪いことを判断し、よいと思うことを進んでしようとする」の項目においては90%以上の児童が肯定的な回答をしており、児童会との連携、学期にあった学校生活オリエンテーションも効果があったように思う。 ・児童の細かな見取りと共通理解の継続、教育相談と連携し専門相談を行い継続的な支援も今後継続していかなくてはならない。
	・学校の現状にあった学校生活オリエンテーションを4月は全校一斉に行いどのクラスにも学習規律が定着し、落ち着いて学びに向かう集団にする。 ・児童会と連携して、学期ごとに、自己肯定感、自己有用感が高まるようにする取組を行い、あたたかい集団にする。 ・不登校を含め、学校生活に不安のある児童の実態把握と教職員との共通理解を図り、有効な手立や対策を考える。	・児童アンケート「みんなで何かすることが楽しい」「最後まであきらめずに取り組んでいる」という項目においてどちらも90%以上の児童が肯定的な回答をしている。 ・「お楽しみ祭り」「いい言葉ビンゴ」の取り組みやクラスでの困り事についてさざなみ会議で話し合うことで児童間で自治意識が高まった。 ・児童が主体的に活動できるようになってきた。2学期も学年と下学年とのつながりも深めていく児童会活動をしていきたい。	・児童アンケート「みんなで何かすることが楽しい」「最後まであきらめずに取り組んでいる」という項目においてどちらも90%以上を1学期に引き続き維持できていた。 ・あいさつ運動の取り組み方を変えたことで上学年が下学年にお手本を見せることができた。 ・ほかほか祭りを通してクラス全体で協力し計画・実施で主体性が高まった。 ・児童会を中心に全校であいさつ運動などを取り組み、当事者意識を持たせていきたい。
児童会	＜児童の主体性を高める＞	・重点目標を校内や教室に掲示したり、学期初めのオリエンテーションで児童に伝えたりしたことで、きまりを守ることへの意識が高まった。今後も学期の初めに学校生活オリエンテーションで全校児童にきまりを守ることの大切さについて啓発をする。 ・1学期は担任による授業にとどまってしまうので、2学期以降はクラスでの授業だけでなく、外部人材と連携した授業を行う。Zoomなどオンラインを活用した授業も検討する。 ・授業参観での道徳授業の実施や道徳通信の発行はできた。引き続き情報の発信をして、地域の方や保護者とともに児童の心を育む。	・児童アンケート「みんなで何かすることが楽しい」「最後まであきらめずに取り組んでいる」という項目においてどちらも90%以上を1学期に引き続き維持できていた。 ・あいさつ運動の取り組み方を変えたことで上学年が下学年にお手本を見せることができた。 ・ほかほか祭りを通してクラス全体で協力し計画・実施で主体性が高まった。 ・児童会を中心に全校であいさつ運動などを取り組み、当事者意識を持たせていきたい。
	・授業や学校行事などで児童が主体的に活動を計画・実施できるように支援し、児童の主体性を高める。 ・児童会活動では、上学年が活躍できる場をつくり、下学年があこがれる上学年となれるようにする。	・重点目標を校内や教室に掲示し、きまりを守ることへの意識を高める。 ・地域の方・保護者等、外部人材と連携した授業実践を行う。 ・道徳通信で道徳的取り組みを保護者に向けて発信し、地域の方や保護者とともに児童の心を育てていく。 ・校内特別支援委員会と連携を図り、本校在籍の外国ルーツの児童に対する理解を深める職員研修を行う。	・読書マイスターの取組により、各学年の発達段階にふさわしい本を手取る児童が増えた。2学期以降もマイスターの児童が増えるように声かけを継続していく。 ・学校での読書への関心は高まったものの、家庭での読書習慣の定着は弱い。毎月、家族読書に取り組んでいるが、学年が上がるにつれて、家庭で読書に充てる時間が少なくなっている。だからこそ、月に1回の家族読書を継続し、本に触れる時間を確保していきたい。また、図書館で借りた本を家庭に持ち帰って読むよう、声掛けを行っていく。
道徳教育	＜「規則の尊重」を重点目標とし、小さなきまりを大切にすることを育む＞	・重点目標を校内や教室に掲示し、きまりを守ることへの意識を高める。 ・地域の方・保護者等、外部人材と連携した授業実践を行う。 ・道徳通信で道徳的取り組みを保護者に向けて発信し、地域の方や保護者ととともに児童の心を育てていく。 ・校内特別支援委員会と連携を図り、本校在籍の外国ルーツの児童に対する理解を深める職員研修を行う。	・きまりを守ることへの意識について、学期の始めと終わりに全校集会の場で全校児童に伝えることを継続したことで、意識が高まった。また、教職員間でも適宜共通理解を図ったことで、同じ意識をもって指導にあたることができた。 ・2学期の授業において、外部講師や校内の通訳を招くなど外部人材と連携した活動をしたり、学年間で担任を交換した授業を実施したりすることができた。一方で、これらの活動に取り組めた学年とそうでない学年があった。教職員での情報交換を密にして、来年度に向けて、地域資源や地域人材を活用した授業を、児童の実態に応じて計画的に位置付ける。 ・道徳通信を発行し、保護者と地域と学校が一体となって児童の心を育む意識を高めていく。保護者に対して、規範意識や丁寧な言葉遣いに関する啓発を行っていく。
	・読書マイスターの取組で、読書への関心を高め、選書の幅を広げる。 ・家庭向けおたよりの発行や、毎月1回の家族読書に取り組むことで、家庭での読書を推進する。	・読書マイスターの取組により、各学年の発達段階にふさわしい本を手取る児童が増えた。2学期以降もマイスターの児童が増えるように声かけを継続していく。 ・学校での読書への関心は高まったものの、家庭での読書習慣の定着は弱い。毎月、家族読書に取り組んでいるが、学年が上がるにつれて、家庭で読書に充てる時間が少なくなっている。だからこそ、月に1回の家族読書を継続し、本に触れる時間を確保していきたい。また、図書館で借りた本を家庭に持ち帰って読むよう、声掛けを行っていく。	・読書マイスターの取組により、児童の選書の幅が広がり、児童の読書量が増えた。特に、1、2、5年生はほとんどの児童が目標を達成することができた。しかし、学年によって、達成率に差があった。来年度は、取組方法やねらひの周知の仕方を考え直し、全ての学年の達成率を上げられるようにする。 ・月に1回の家族読書の取組では、保護者からのあたたかいコメントが多く寄せられた。しかし、保護者アンケートの「子どもは家庭で進んで読書をしている」の質問項目に対する肯定的な回答が50%と、低い結果であった。来年度は家庭だけでなく、学校での読書の質の向上や、読書量の向上が見られたのかについても、アンケートを取って数値で検証したい。
読書教育	＜読書の質の向上を図る＞	・読書マイスターの取組により、各学年の発達段階にふさわしい本を手取る児童が増えた。2学期以降もマイスターの児童が増えるように声かけを継続していく。 ・学校での読書への関心は高まったものの、家庭での読書習慣の定着は弱い。毎月、家族読書に取り組んでいるが、学年が上がるにつれて、家庭で読書に充てる時間が少なくなっている。だからこそ、月に1回の家族読書を継続し、本に触れる時間を確保していきたい。また、図書館で借りた本を家庭に持ち帰って読むよう、声掛けを行っていく。	・読書マイスターの取組により、児童の選書の幅が広がり、児童の読書量が増えた。特に、1、2、5年生はほとんどの児童が目標を達成することができた。しかし、学年によって、達成率に差があった。来年度は、取組方法やねらひの周知の仕方を考え直し、全ての学年の達成率を上げられるようにする。 ・月に1回の家族読書の取組では、保護者からのあたたかいコメントが多く寄せられた。しかし、保護者アンケートの「子どもは家庭で進んで読書をしている」の質問項目に対する肯定的な回答が50%と、低い結果であった。来年度は家庭だけでなく、学校での読書の質の向上や、読書量の向上が見られたのかについても、アンケートを取って数値で検証したい。
	・読書マイスターの取組で、読書への関心を高め、選書の幅を広げる。 ・家庭向けおたよりの発行や、毎月1回の家族読書に取り組むことで、家庭での読書を推進する。	・1・2年生での「なかよしの会」、2学年合同での「遠足」、縦割りグループを活用した「向本折っ子祭り」など、異学年との交流の後に、ミニレターやビデオレターで活動を振り返るとともに、感謝の気持ちを伝えることができた。活動を返して児童同士の関わりが広がりに広がっているため、2学期以降も継続する。 ・道徳や他の学習でも、相手の良さをミニレターで渡す活動をしたり、ペアトークをしたりして、自分や友達のよさを見つめることができた。これらの取組を継続し、自己肯定感が高めたい。 ・夏季休業中に、外国籍児童の国籍、宗教、食事、生活習慣、学校での配慮事項等を共通理解する研修を行う。	・児童アンケートで「友だちと仲良くしている」「みんなで何かするのが楽しい」の項目では肯定的な回答が90%を上回っている。一方で「よい言葉遣いをしている」では、90%を下回る学年が多かった。このことから、3学期もミニレター等の活動を通して、異学年との関わりを大切にするとともに、言葉遣いについて意識を高める。また、学年懇談会や学年通信などを通して、保護者の言葉遣いに対する意識を高める。 ・今後も、ミニレターの交換、毎朝のペアトーク等の活動を継続し、自己肯定感を高めたり、共感の人間関係を育成したりする。 ・配慮が必要な児童について、配慮事項等を共通理解する研修を実施し指導に生かすことができた。
人権教育	＜自分と他者を大切にしようとする心を育む＞	・1・2年生での「なかよしの会」、2学年合同での「遠足」、縦割りグループを活用した「向本折っ子祭り」など、異学年との交流の後に、ミニレターやビデオレターで活動を振り返るとともに、感謝の気持ちを伝えることができた。活動を返して児童同士の関わりが広がりに広がっているため、2学期以降も継続する。 ・道徳や他の学習でも、相手の良さをミニレターで渡す活動をしたり、ペアトークをしたりして、自分や友達のよさを見つめることができた。これらの取組を継続し、自己肯定感が高めたい。 ・夏季休業中に、外国籍児童の国籍、宗教、食事、生活習慣、学校での配慮事項等を共通理解する研修を行う。	・児童アンケートで「友だちと仲良くしている」「みんなで何かするのが楽しい」の項目では肯定的な回答が90%を上回っている。一方で「よい言葉遣いをしている」では、90%を下回る学年が多かった。このことから、3学期もミニレター等の活動を通して、異学年との関わりを大切にするとともに、言葉遣いについて意識を高める。また、学年懇談会や学年通信などを通して、保護者の言葉遣いに対する意識を高める。 ・今後も、ミニレターの交換、毎朝のペアトーク等の活動を継続し、自己肯定感を高めたり、共感の人間関係を育成したりする。 ・配慮が必要な児童について、配慮事項等を共通理解する研修を実施し指導に生かすことができた。
	・異学年で取り組む学習や行事後に、ミニレター形式でふり返りを交流する。 ・道徳や学級活動で、自分や友達の良いところを見つけを行うことを通して、ありのままの自分を受け入れたり、自己肯定感を高めたりできるようにする。 ・校内特別支援委員会と連携を図り、本校在籍の外国ルーツの児童に対する理解を深める職員研修を行う。	・握力・柔軟性・持久力の向上のための準備運動を企画し、2学期以降に体育委員会から発信する。 ・学校保健委員会に向けて、「睡眠」に関するアンケートを実施し、学校保健委員会の講話に本校の現状を入れていただく。 ・夏季休業明けに生活習慣を見直すための保健指導を行う。	・委員会からの発信でいろいろな企画を発信することができた。しかし、握力・柔軟性・持久力の向上には継続して運動していくことも大切なので、今後も継続していく。 ・学校保健委員会でテーマにした睡眠について、すぐ後と冬休みに家庭と連携して取り組みをした。取組をすることで、学校でも声かけし家庭でも意識してもらえたので、来年度に向けて取組を続けながら改善していきたい。
保健健康教育	＜すこやかな身体を育む＞	・握力・柔軟性・持久力の向上のための準備運動を企画し、2学期以降に体育委員会から発信する。 ・学校保健委員会に向けて、「睡眠」に関するアンケートを実施し、学校保健委員会の講話に本校の現状を入れていただく。 ・夏季休業明けに生活習慣を見直すための保健指導を行う。	・委員会からの発信でいろいろな企画を発信することができた。しかし、握力・柔軟性・持久力の向上には継続して運動していくことも大切なので、今後も継続していく。 ・学校保健委員会でテーマにした睡眠について、すぐ後と冬休みに家庭と連携して取り組みをした。取組をすることで、学校でも声かけし家庭でも意識してもらえたので、来年度に向けて取組を続けながら改善していきたい。
	・前年度のスポーツテストの結果で課題となった握力・柔軟性・持久力の向上のため、体育の準備運動やあすチャレの中でそれらを向上する運動を取り入れる。 ・2学期の学校保健委員会で「睡眠」をテーマに学習し、学校と家庭が連携して行える取り組みをする。	・年間指導計画やカリキュラムマップをもとに、学習用端末を効果的に利用できる場面や活用方法を検討することができた。また研究授業を中心に授業を見合うことで、学習用端末の効果的な活用について考えることができた。 ・今後も若プロの際に実践を交流し、児童の学びを深める授業づくりにつなげる。 ・カリキュラムマップをもとに、プログラミング的思考の育成を目指した授業を計画的に行っていく。	・学校評価の「児童生徒は、コンピュータなどのICT機器を、ほかの友達と意見を交換したり、調べたりするために使用している。」の項目の肯定的な回答が、職員が93.3%、児童が94.6%であった。また、「児童生徒が自分の特性や理解度・進捗に合わせて課題に取り組む場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を活用している。」の項目の肯定的な回答が、職員が100%、児童が89.5%であった。普段の授業の中で学習用端末を活用が進んできたと言える。 ・授業実践の共有が不十分であった。来年度は若プロだけでなく、職員会議後のミニ交流等を実施したい。
情報教育	＜ICT機器を活用して、教科の学びを深める＞	・年間指導計画やカリキュラムマップをもとに、学習用端末を効果的に利用できる場面や活用方法を検討することができた。また研究授業を中心に授業を見合うことで、学習用端末の効果的な活用について考えることができた。 ・今後も若プロの際に実践を交流し、児童の学びを深める授業づくりにつなげる。 ・カリキュラムマップをもとに、プログラミング的思考の育成を目指した授業を計画的に行っていく。	・学校評価の「児童生徒は、コンピュータなどのICT機器を、ほかの友達と意見を交換したり、調べたりするために使用している。」の項目の肯定的な回答が、職員が93.3%、児童が94.6%であった。また、「児童生徒が自分の特性や理解度・進捗に合わせて課題に取り組む場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を活用している。」の項目の肯定的な回答が、職員が100%、児童が89.5%であった。普段の授業の中で学習用端末を活用が進んできたと言える。 ・授業実践の共有が不十分であった。来年度は若プロだけでなく、職員会議後のミニ交流等を実施したい。
	・年間指導計画やカリキュラムマップを基に、学習用端末が効果的に利用できる場面や活用方法を考え、活用を推進する。 ・ICT機器を活用した授業実践を定期的に共有し、児童の学びを深める授業に繋げる。 ・各学年の発達段階に応じて、プログラミング的思考を養うための授業を行う。	・トマト栽培、サツマイモの苗植え等、地域人材の活用で地域についての理解を深めることができた。地域人材を活用し、学習活動の充実を図っていく。 ・定期的に発行される学校だよりや学年だより、HPで学校の様子を伝えている。保護者アンケート「学校からのお便りや情報は適切でわかりやすい」の項目では肯定的な回答が100%であった。今後も適切な発信や配信に努めていく。	・教職員アンケートでは、92.9%が地域人材を活用した学習活動を行うことができたと回答している。例年の活動ではあるが、確実に行っていくことを大切にしたい。 ・保護者アンケート「学校からのお便りや情報は適切でわかりやすい」の項目では肯定的な回答が98.9%であった。来年度も今年度同様に適切な発信や配信に努めていく。
家庭・地域との連携	＜開かれた学校づくりの推進＞	・トマト栽培、サツマイモの苗植え等、地域人材の活用で地域についての理解を深めることができた。地域人材を活用し、学習活動の充実を図っていく。 ・定期的に発行される学校だよりや学年だより、HPで学校の様子を伝えている。保護者アンケート「学校からのお便りや情報は適切でわかりやすい」の項目では肯定的な回答が100%であった。今後も適切な発信や配信に努めていく。	・教職員アンケートでは、92.9%が地域人材を活用した学習活動を行うことができたと回答している。例年の活動ではあるが、確実に行っていくことを大切にしたい。 ・保護者アンケート「学校からのお便りや情報は適切でわかりやすい」の項目では肯定的な回答が98.9%であった。来年度も今年度同様に適切な発信や配信に努めていく。
	・授業や特別活動において地域人材を活用し、学習活動の充実を図る。（総合的な学習の時間、道徳、クラブ活動など） ・各種便りやHP、メール配信等で学校から適切に情報を発信し、家庭や地域との連携に努める。	・「自分にはよいところ、成長したところがある」の肯定的回答が多くなっているのは、様々な取組の成果である。 ・話し合いの項目については、評価が低い。 ・家庭で本を読むことは、なかなか難しい。読書を宿題として出しても良い。	
学校関係者評価	<p>(中間) ・限られた時間の中で自主性や学力を高めるのは難しいと思うが、教師は、1時間の中でここだけははずさないという授業をしてほしい。 ・先生方が「やりがい」をどれだけ感じているか。人それぞれ「やりがい」の内容は違う。地域・PTAとして協力していきたい。 ・子どもの様子を見て、授業途中にトイレに行く様子や教室を出た後の机やイスの整頓等が気になる。本来は家庭で教えることでもあるが、きちんとさせたい。 ・安心して子どもが過ごしていけることが大事である。大人の表情・態度を子どもはよく見ている。 (年度末) ・学校重点項目④について、児童の数値が中間より下がっているが、どのような行動が相手のことを思う行動なのかを気づくことができたと思うのではなか。読書は宿題として出しても良い。</p>		

学校関係者評価	<p>(中間) ・限られた時間の中で自主性や学力を高めるのは難しいと思うが、教師は、1時間の中でここだけははずさないという授業をしてほしい。 ・先生方が「やりがい」をどれだけ感じているか。人それぞれ「やりがい」の内容は違う。地域・PTAとして協力していきたい。 ・子どもの様子を見て、授業途中にトイレに行く様子や教室を出た後の机やイスの整頓等が気になる。本来は家庭で教えることでもあるが、きちんとさせたい。 ・安心して子どもが過ごしていけることが大事である。大人の表情・態度を子どもはよく見ている。 (年度末) ・学校重点項目④について、児童の数値が中間より下がっているが、どのような行動が相手のことを思う行動なのかを気づくことができたと思うのではなか。読書は宿題として出しても良い。</p>
---------	--